

報 告 書

開催日時	平成27年5月18日（月）午後7時00分～8時30分	
開催場所	コミュニティホール（高田地区）	
出席議員	挨拶 佐竹 強 班長	
	司会進行	大坪 涼子
	報告者	藤倉 泰治
	記録者	鶴浦 昌也
	議員	大坂 俊、伊藤 明彦
参加人数	市民17人、市職員1人	
主な要望 ・提言等	<p>1. 配布された資料で、1ページと2ページは予算の単位が「万円」となっているが、3ページ以降は「千円」単位となっている。見やすく単位をそろえてほしい。</p> <p>2. 資料の3ページ以降の予算に関し、(3)までが復興交付金で行う事業で、(4)の「その他の事業（通常分）」が被災があってもなくても、健康保険とか市職員の給与など、普通に支出される事業か。</p> <p>3. 資料3ページの「高田北地区（東区）復興整備事業費」は市民体育館のことと聞いたが、いつごろ完成する予定か。平成29年度までにできるのか。私は剣道をやっている。現在、高田一中の体育館で千葉周作大会を開催しているが、2コートに縮小して行っている。できれば以前の体育館のように4コートほしいし、2階から観覧できるようにしたい。29年度に新体育館が完成すれば、東日本の剣道大会を計画していきたい。</p> <p>4. 資料4ページに「保健体育施設建設事業費」があるが、これは体育館を建設するものか。保健体育というのは、震災前になかったと思うが、新しい施設を建設するということか。</p> <p>5. 市民の暮らしが安定したまちづくりに「保健福祉総合センター建設事業費」がある。これはセンター建設に向けた基本構想づくりの予算化との説明だった。その中で、高齢者とか福祉とか、介護とかを一括してやりたいような話だったが、福祉を考えた時に、現在は母子協もなく、子育て世代とか、すべての世代が総合的にみられるような施設を考えているのか。どのような世代を考えているのか。母子センター的なものなのか、子育てに手厚いものになるのか。いろいろな世代から話を聞いてセンターを整備していくのか。市長がいうノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりを考えた時、ノーマライゼー</p>	

ションは福祉用語であり、福祉一括で考えると、本市は高齢化が進んでいるので、高齢者福祉を手厚くということになりがち。このまま市として存続させていくためには人口の流出を止めなければならない。若い世代に頑張ってもらい、子育てのしやすいまちづくりを進めていかないと、もっと人口が流出していく。お年寄りを大切にしながら若い人たちとも手を携えて生活しやすいまちづくりを目指すことが必要。福祉をもっと総合的にみなければならない。色々な世代の声を聞いてほしい。

6. 体育施設の整備については、屋内だったり室内だったり建物の話のようだが、以前、メモリアル公園や旧サッカー場、野球場の図面が各戸配布された。周辺に更地や空き地があるなら、グラウンドゴルフ場を整備してほしい。震災前、県内で一番早い時期に春一番大会を開催してきた。参加者は500から700人で、内陸部から多くの参加があった。いまでも広い海を見ながらプレーしたいという声がある。教育長から長部のサッカーグラウンドを使ってくれと言われているが、サッカーの場合は芝が6センチ以上で、ゴルフボールは5センチ。サッカーグラウンドでやるとボールが芝に沈んで飛ばないため、選手から嫌われている。ぜひ、一般の公園にでもグラウンドゴルフ場を設けてほしい。この4年間は内陸部からだいぶ招待されたが、高田保育所跡地でできるようになってからは招待がなくなった。
7. 現在、復興ために莫大なお金を使えるようになっている。心配なのは、これから体育館などいろいろなものを建てるようだが、本市は本来約100数十億円規模の一般会計予算のまち。復興が終わって元に戻っても増えることはない。いまお金があるからといって建物を建てたら、保守管理を自前でやらなければならない。その費用は次の世代に負わせてしまう。身の丈に合った事業を進めるべき。福祉や子育てを重点に進めていくべき。
8. 新年度予算が可決され、各種事業が行われると思うが、よく「高田は遅れている」との声を聞く。議員が監督、指導し、指摘しながら早く進めるよう頑張ってもらいたい。
9. 報道によると、国の震災に対する支援のお金を切るような話がある。市長だけでなく、みんなで国に継続して予算をつけてもらえるよう、力を合わせ、市民も署名活動をするなら協力すると思う。道路関係では自主財源でやるようにとの公表もあるが、我々の税金だけでは容易でない。
10. 仮設住宅に住んでいる被災者は、仮設暮らしが4年を過ぎた。災害救助法によれば仮設住宅は2年とされているが、われわれは換地する場所が遅れている。28年後半から29年に完成するという。最近では地震

も多く、細い杭の上に建っている仮設なので、ひっくりかえらないか心配。雨漏りや風も気になり、服もカビたり、早く仮設を出たいと思っているが、教育委員会が造成地を発掘調査したりしている。仕方ない面もあるが、一日も早く仮設住宅から出られるようお願いしたい。そうして小中高校の校庭を開放したい。

11. 中心市街地に関し、当初はコンパクトシティという構想があった。しかし、そこには新しい市庁舎もなく、県立高田病院もない。高田松原のメモリアル公園の計画を聞くと、また国道45号線沿いの開発が進んで繁盛し、駅前通りが閑散とするようになるのではと心配している。音楽ホールのような施設や博物館、図書館はできそうだが、病院がなくなったのは残念。何が中心になるのか。

12. 平成25年度に高田一中で行われた説明会で、移転先の高台1はこのコミュニティホールのある場所だった。高台2は高田一中の北側で、「移転先としてどこを希望するか」と聞かれた。私は震災前に高田一中の南側に住んでいたの、一番近くの高台2を希望していた。しかし、昨年夏に移転先を行政区で分けられ、「高田町の一区乙はすべて高台3ですよ」と言われがっかりした。以前から高台2の工事が進んでいたの、喜んでいて、高台3に行くのが嫌で元のかさあげしたところでいいとした。夢を持って「もう少し」と思っていた。最初の話だと、26年度の後半から家を建てられるというものだった。市の計画は議会で承認したものと思うが、市当局に対抗できるような議会であってほしい。市当局の提案がすべて議会を通過している。一部修正もない。もっと頑張ってもらいたい。

13. 市役所の位置に関し、以前市民のアンケートをとったが、今後何らかの市民アンケートをとる予定はあるか。高田町和野地区の道路についてもそうだが、鳴石ヶ丘をまっすぐ行って抜けるというのに、計画の途中で鍵状にしかできないことになった。図面ができあがり、着工した後に地主の関係で鍵状にしかできないという。今後、市民からアンケートをとってどれほど生かされるのか。商業地についても、商工会のグループが検討している。また、市民有志が自分たちのまちづくりの構想を個々に会議を開いてまとめている。これらを市民アンケートでまとめることができないのか。大学教授が考えた各グループで協議しているように報道されている。

14. ほかの地区で開かれた議会報告会にも出席したが、ある会場で「高田小学校は高台移転するが、なぜ小友小学校は移転しないのか」との質問があった。ある議員は「高田小学校が高台移転するのは、まわりの道路を拡幅するので、校舎や体育館を壊さなければならない。だから高台移転するんだ」と回答し、ほかの議員は何も言わなかった。私

は被災したから高台へ移転すると思っていたので、違ったと感じた。また、平成26年の市街地復興効果促進事業で、小学校建設計画策定事業というのがあり、「気仙小と高田小は地域防災拠点の役割を踏まえた施設として整備するので、地域住民や有識者の意見を踏まえた計画を策定する」とされ、期限が今年の3月15日だった。この計画は実際に進んでいるのか。

15. 先週、市のホームページに「集落再生に向けた住民懇談会の開催」というのが掲載された。それは、おそらく被災地域土地利用計画事業の平成26年度事業で、長部と広田で行い、次に米崎と小友で行い、計画では高田も今泉も、下矢作も竹駒も住民懇談会を行う内容となっている。早く開催しないと、お金がなくなるので催促してほしい。

16. 議員は先頭に立って復興の進捗よく状況を把握し、中身をもっと吟味しながら、市当局に注意すべきところは注意して頑張してほしい。

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 松田 信之 様

平成27年6月8日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成27年議会報告会2班

班長 佐竹 強 ㊟